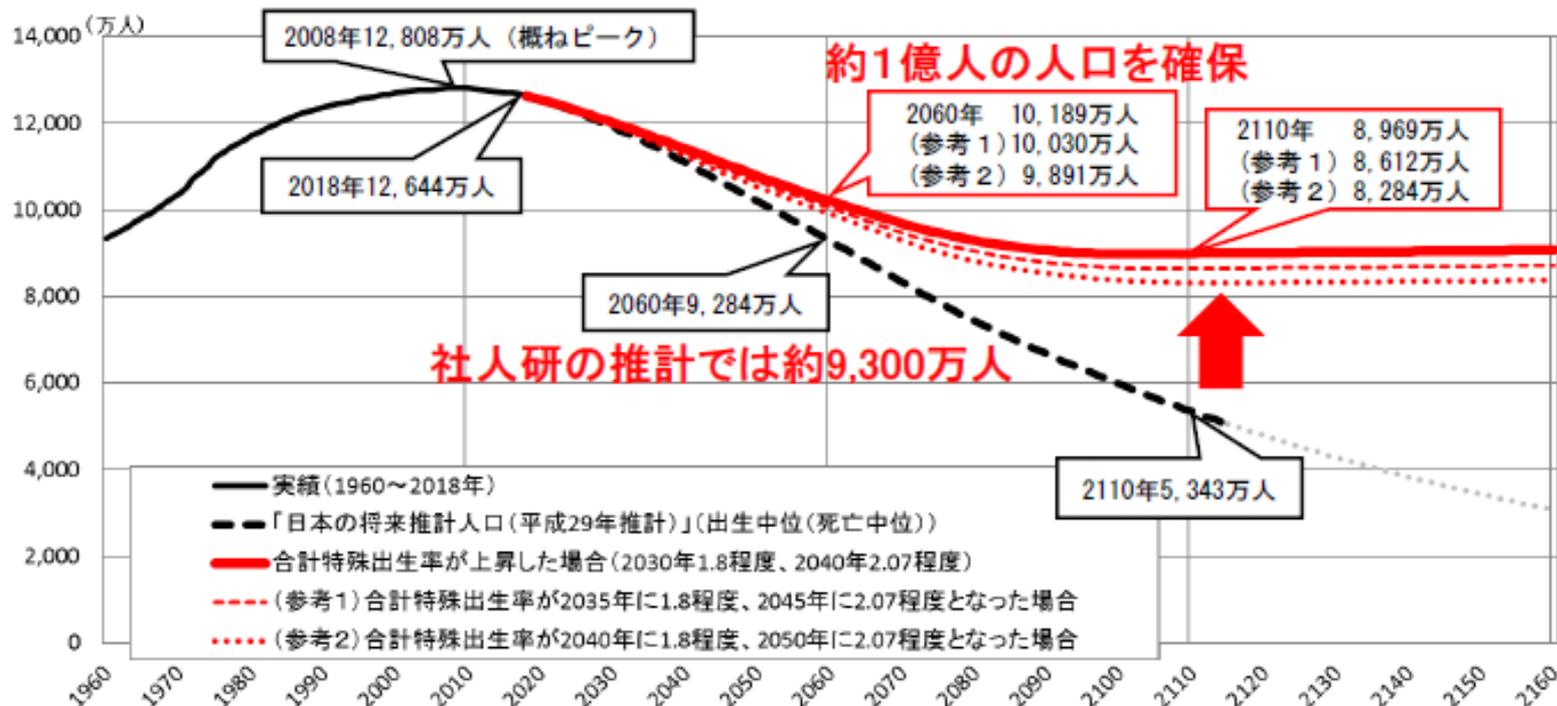


新・宮城の将来ビジョンについて

みやぎ観光振興会議

- 社人研の推計^(注1)によると、2060年の総人口は約9,300万人まで減少。
- 仮に合計特殊出生率が上昇^(注2)すると、2060年は約1億人の人口を確保。
長期的にも約9,000万人で概ね安定的に推移すると推計。
- 仮に合計特殊出生率の向上が5年遅くなると、将来の定常人口が約300万人少なくなると推計。

我が国の人口の推移と長期的な見通し



(注1) 社人研「日本の将来推計人口(平成29年推計)出生中位(死亡中位)」

(注2) 「合計特殊出生率が上昇した場合」は、2030年に1.8程度、2040年に2.07程度となった場合について、まち・ひと・しごと創生本部事務局において推計を行ったものである。

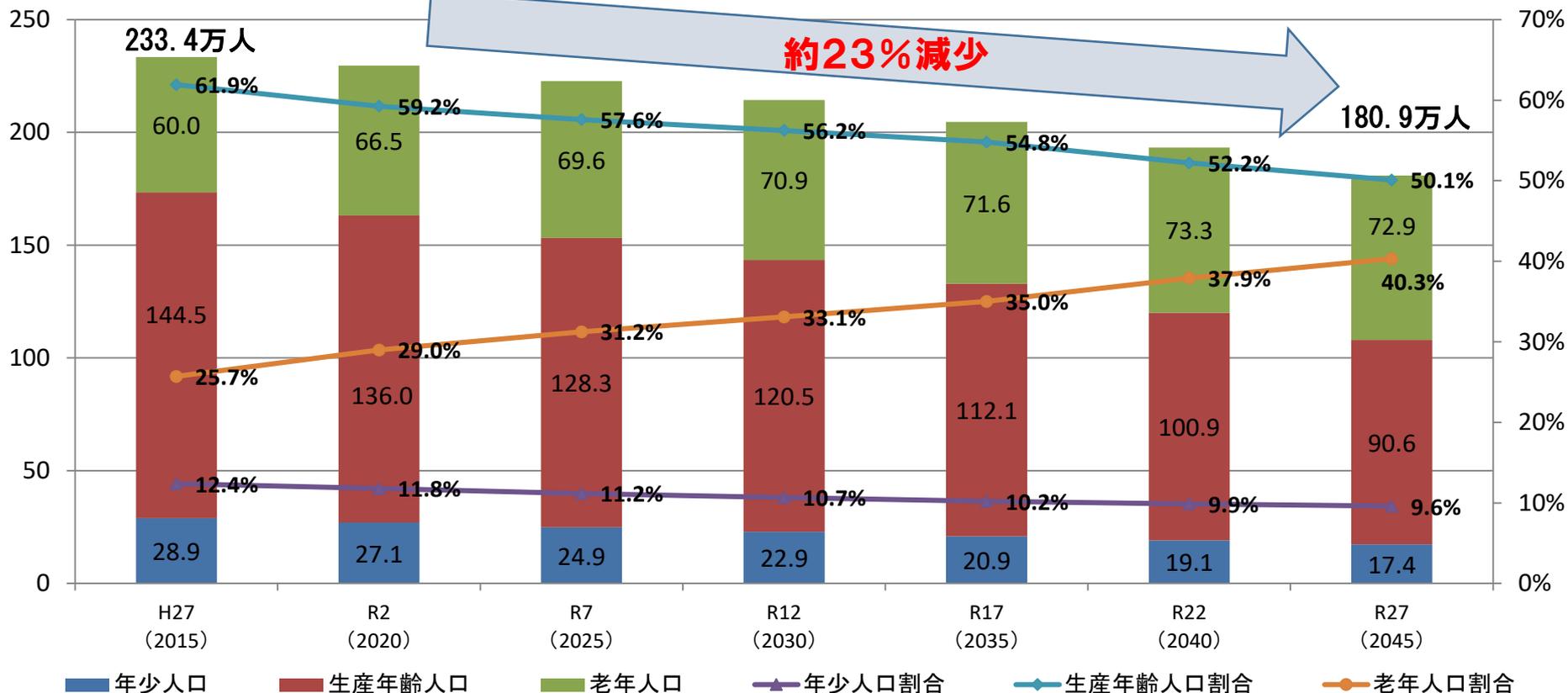
(注3) 実績(2018年までの人口)は、総務省「国勢調査」等による(各年10月1日現在の人口)。2115～2160年の点線は社人研の2110年までの仮定等をもとに、まち・ひと・しごと創生本部事務局において、機械的に延長したものである。

国の推計による宮城県の将来の人口①

ポイント

- 国立社会保障・人口問題研究所の推計…2045年の宮城県の人口＝約180万9千人になる見込み
- 生産年齢人口（15～64歳）及び年少人口（14歳以下）は、今後さらに減少
- 老年人口（65歳以上）は増加し、2045年の高齢化率は40.3%になる見込み

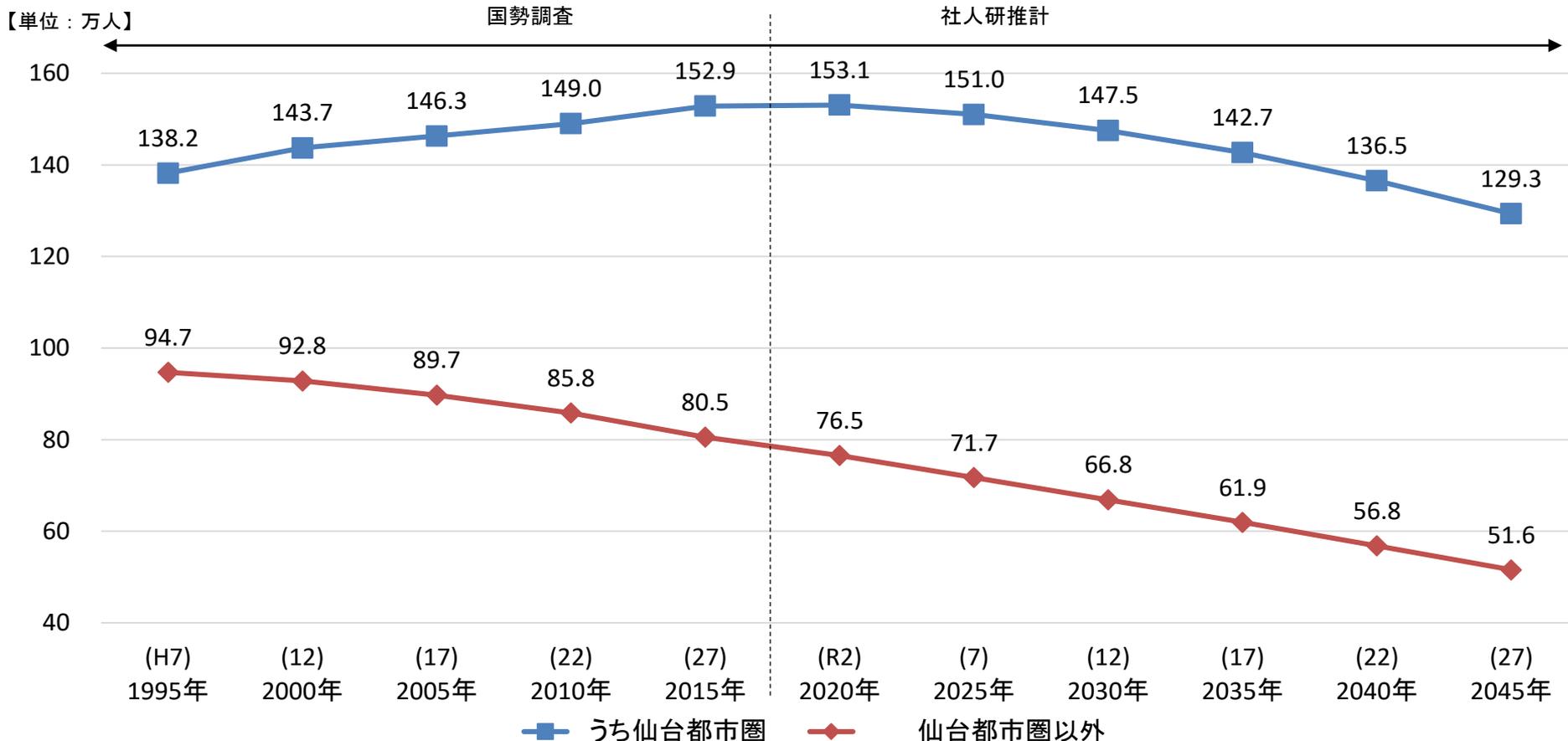
【単位：万人】



出典：「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）」
（国立社会保障・人口問題研究所）

国の推計による宮城県の将来の人口②

○ 仙台都市圏とその他の圏域とで比較すると、仙台都市圏以外の人口が減ることで、仙台都市圏への転入者も減り、これまで増加傾向にあった仙台都市圏においても人口が減少するため、県全体で人口減少が進展する見込み

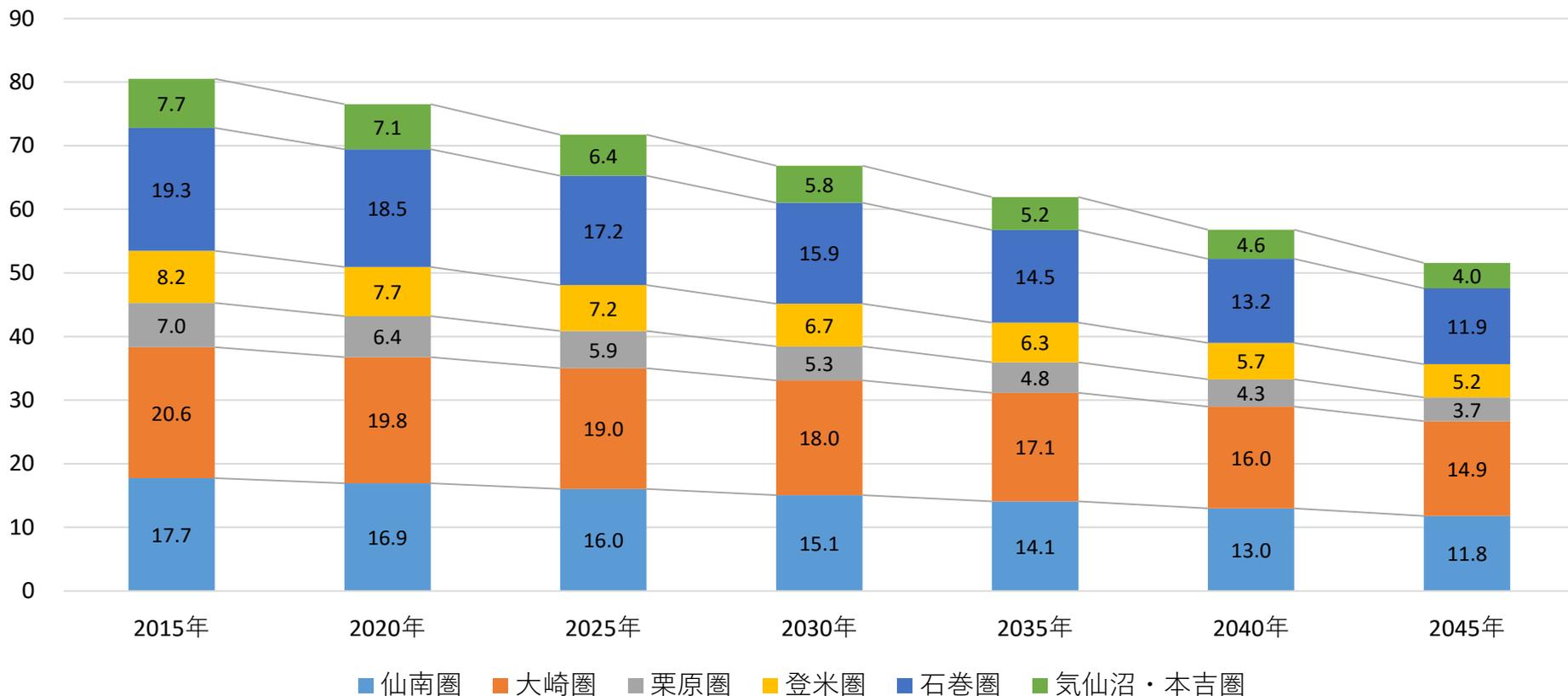


出典：「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）」
（国立社会保障・人口問題研究所）

国の推計による宮城県の将来の人口③

○ 仙台都市圏以外の各圏域を比較すると、各圏域において人口減少が加速することが見込まれるが、圏域によって人口減少の進行度合いに差が生じている

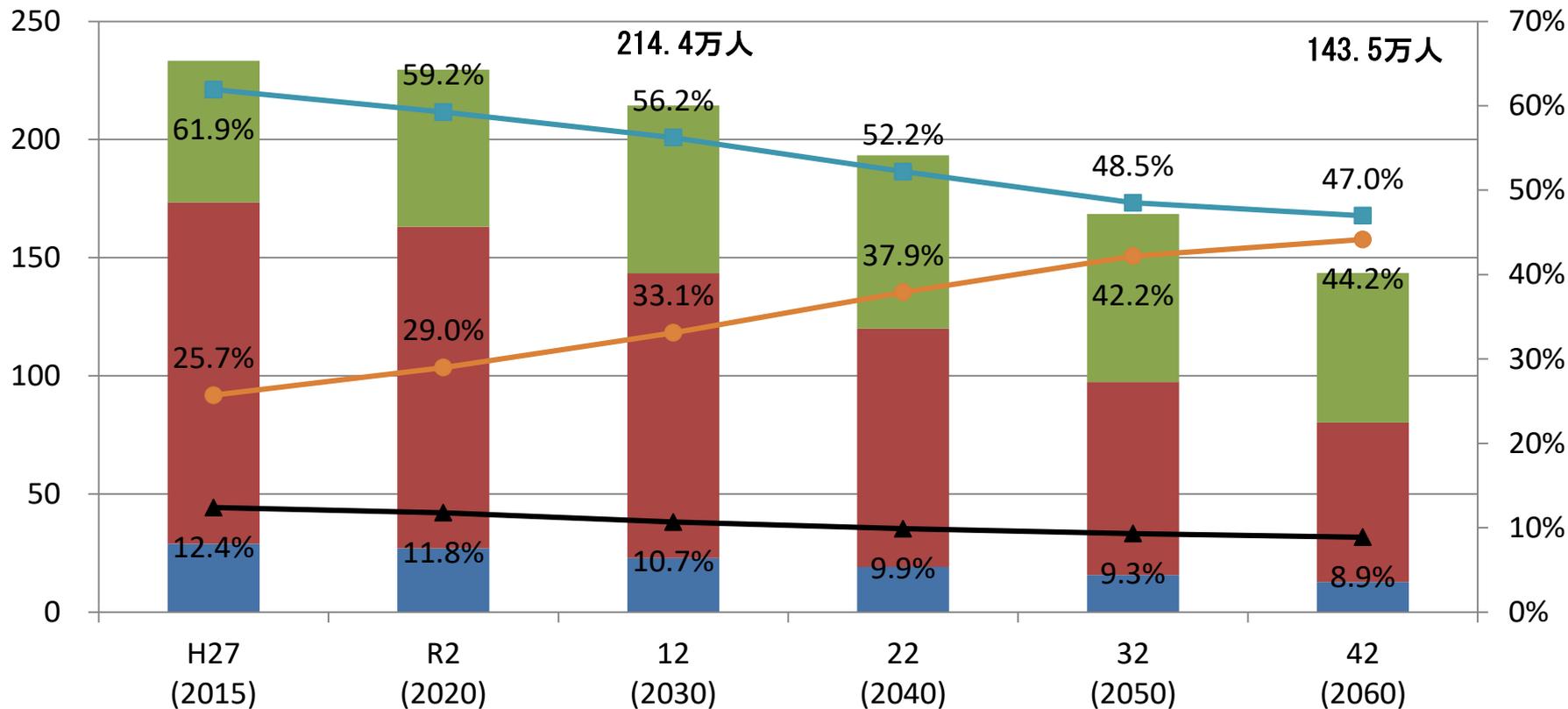
【単位：万人】



出典：「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）」
（国立社会保障・人口問題研究所）

宮城県における将来人口のケーススタディ①

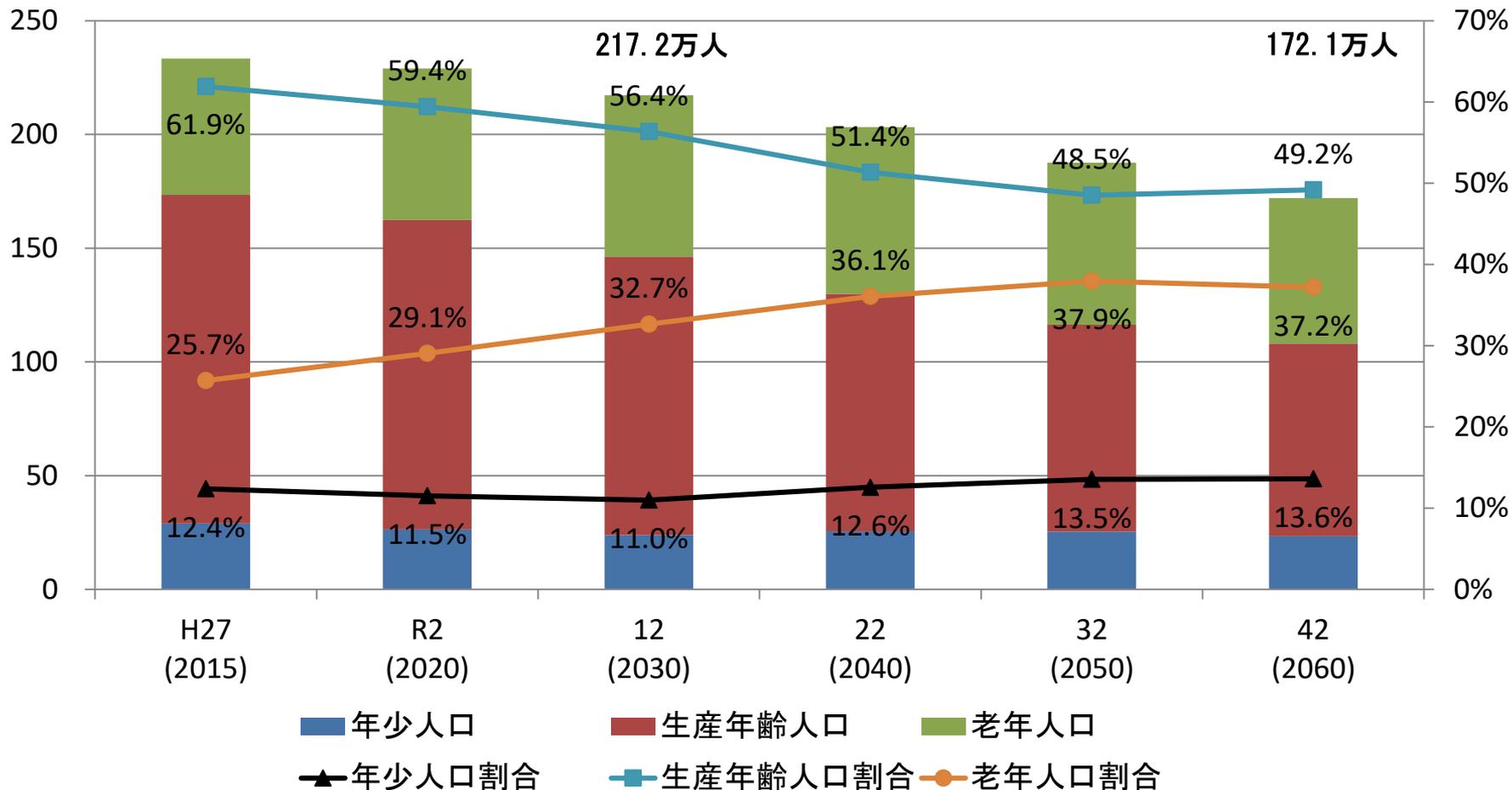
ケース1 社人研の推計に準拠した場合（合計特殊出生率が1.40前後で推移した場合）
 ※2060年の宮城県の推計人口：143.5万人（2015年比61%）



■年少人口 ■生産年齢人口 ■老年人口 ▲年少人口割合 ■生産年齢人口割合 ●老年人口割合

宮城県における将来人口のケーススタディ④

ケース 4 合計特殊出生率が2030年に1.6, 2035年に1.8 (希望出生率), 2040年に2.07 (人口置換水準) に到達し, 社会減が解消する場合
 ※2060年の宮城県の推計人口: 172.1万人 (2015年比74%)



(1) 県政運営の理念

富県躍進！“PROGRESS Miyagi” ～多様な主体との連携による活力ある宮城を目指して～

私たちが目指す10年後の姿は、震災からの復興を成し遂げ、民の力を最大限に生かした多様な主体の連携により、これまで積み重ねてきた富県宮城の力が更に成長し、県民の活躍できる機会と地域の魅力にあふれ、東北全体の発展にも貢献する、元気で躍動する宮城です。

そして、県民一人ひとりが、安全で恵み豊かな県土の中で、幸福を実感し、いつまでも安心して暮らせる宮城です。

- ▶ 将来像の実現を目指し、県内経済を安定的に成長させ、生み出された富の循環によって安全安心で質の高い暮らしの実現や地域の魅力を高める取組を更に推進し、「生まれてよかった、育ててよかった、住んでよかった」と思える宮城を目指していく。

(2) 政策推進に向けた横断的な視点

「人」づくり

持続可能な未来を担う子どもを社会全体ではなくむととも、誰もがその人らしく活躍できる環境を整備するなど、富県躍進を支える「人」づくりを推進します。

「地域」づくり

地域の特色や資源を生かしながら、「しごと」や「くらし」の質を高め、魅力あふれた持続可能な「地域」づくりを促進します。

イノベーション

先進的技術の活用や異分野との融合など、これまでにない新しい視点により、デジタル化の推進や新産業の創出、地域課題の解決につながる「イノベーション」を促進します。

SDGsの推進

(3) 県行政運営の基本姿勢

民の力を生かした 県行政運営

- ▶ 多様な主体との連携、協働体制の構築
- ▶ 民の力を最大限に生かす、衆知を集めた県政推進

市町村との パートナーシップ

- ▶ 市町村間の広域連携に向けた調整機能
- ▶ 市町村の規模や体制に応じた個別的、補完的な支援

時代の変化に対応する 行財政運営

- ▶ 合理的根拠に基づく政策形成
- ▶ 行政のデジタル化による県民サービスの向上や業務の効率化、働き方改革の推進

広域的な視点 に立った行政

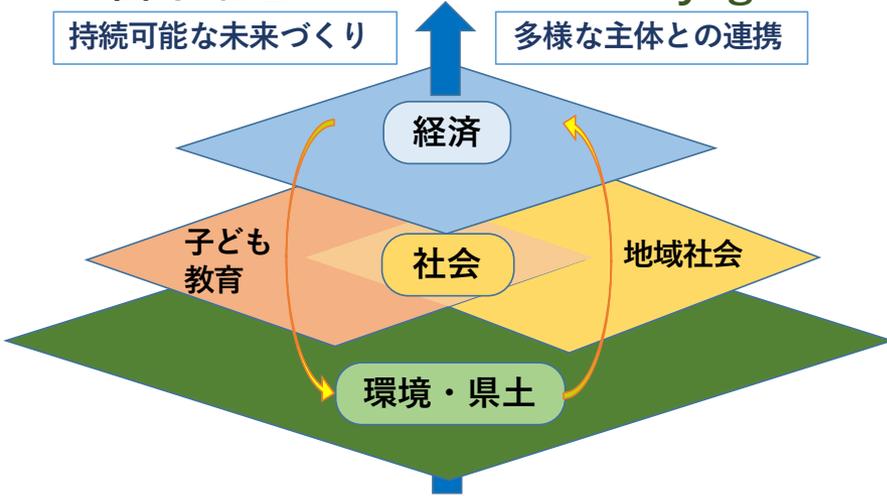
- ▶ 東北各県の産業や観光など様々な資源の融合
- ▶ 国内外への展開を東北各県と連携して推進

政策推進の基本方向

富県躍進！“PROGRESS Miyagi”

持続可能な未来づくり

多様な主体との連携



- 「環境・県土」を基盤とし、その上に成り立つ「社会」と「経済」を柱とした枠組み。「多様な主体との連携」により、経済、社会、環境・県土の相互関連や相乗効果を重視。
- 「子ども・教育」分野については、「地域社会」とともに社会を構成する重要な要素として独立させ、新たに柱立て。
- 政策推進の基本方向「4本の柱」に沿った「持続可能な未来」のための8つの「つくる」と、18の取組を推進。
- 8つの「つくる」の英語の頭文字を合わせて「PROGRESS」と表し、県政運営の理念である「富県躍進！ “PROGRESS Miyagi”」を推進。

政策推進の基本方向「4本の柱」と「持続可能な未来」のための8つの「つくる」

政策推進の基本方向 1

富県宮城を支える県内産業の持続的な成長促進

政策推進の基本方向 2

【新規】社会全体で支える宮城の子ども・子育て

政策推進の基本方向 3

誰もが安心していきいきと暮らせる地域社会づくり

政策推進の基本方向 4

強靱で自然と調和した県土づくり

つくる1 新しい価値 Produce/ Promotion	つくる2 成長の基礎 Sustainable growth
つくる3 子育て Support a new generation	つくる4 教育 Education
つくる5 いきいき Richness	つくる6 安全安心 Good health/ Good life
つくる7 自然と共存 Only one Earth	つくる8 県土 Resilience

基本方向「4本の柱」と18の取組

政策推進の基本方向1

富県宮城を支える県内産業の持続的な成長促進

- (1) 全産業で、先進的取組と連携によって新しい価値をつくる
- 取組1 産学官連携によるものづくり産業等の発展と研究開発拠点等の集積による新技術・新産業の創出
 - 取組2 宮城が誇る地域資源を活用した観光産業と地域を支える商業・サービス業の振興
 - 取組3 地域の底力となる農林水産業の国内外への展開
- (2) 産業人材の育成と産業基盤の活用によって持続的な成長の基礎をつくる
- 取組4 時代と地域が求める産業人材の育成と活躍できる環境の整備
 - 取組5 時代に対応した宮城・東北の価値を高める産業基盤の整備・活用

政策推進の基本方向2

社会全体で支える宮城の子ども・子育て

- (3) 子ども・子育てを社会全体で切れ目なく応援する環境をつくる
- 取組6 結婚・出産・子育てを応援する環境の整備
 - 取組7 家庭・地域・学校の連携・協働による子どもを支える体制の構築
- (4) 社会を生き、未来を切りひらく力をはぐくむ教育環境をつくる
- 取組8 多様で変化する社会に適應し、活躍できる力の育成
 - 取組9 安心して学び続けることができる教育体制の整備

政策推進の基本方向3

誰もが安心していきいきと暮らせる地域社会づくり

- (5) 一人ひとりがいきいきと豊かに生活できる環境をつくる
- 取組10 就労や地域活動を通じた多様な主体の社会参画の促進
 - 取組11 文化芸術・スポーツ活動と生涯学習の振興
- (6) 健康で、安全安心に暮らせる地域をつくる
- 取組12 生涯を通じた健康づくりと持続可能な医療・介護サービスの提供
 - 取組13 障害の有無に関わらず安心して暮らせる社会の実現
 - 取組14 暮らし続けられる安全安心な地域の形成

政策推進の基本方向4

強靱で自然と調和した県土づくり

- (7) 自然と人間が共存共栄する社会をつくる
- 取組15 環境負荷の少ない地域経済システム・生活スタイルの確立
 - 取組16 豊かな自然と共生・調和する社会の構築
- (8) 世代を超えて安全で信頼のある強くしなやかな県土をつくる
- 取組17 大規模化・多様化する災害への対策の強化
 - 取組18 生活を支える社会資本の整備、維持・管理体制の充実

新・宮城の将来ビジョン【抜粋】

1 富県宮城を支える県内産業の持続的な成長促進

2030年には、新しい社会像に対応した産業構造への転換が進み、新たな製品やサービス等による付加価値の創出・生産性の向上を重視し、人口減少・超高齢化社会においても県内経済が持続的に成長することで、「質の高い雇用」を生み出し、若者の県内定着や県民の所得向上につながっています。

つくる1 新しい 価値	取組2 宮城が誇る地域資源を活用した観光産業と地域を支える商業・サービス業の振興	○観光資源の創出や受入環境の整備 ○効果的な情報発信と高付加価値な観光産業の創出 ○地域課題やニーズに対応した商業・サービス業の振興
-------------------	---	---

【目指す宮城の姿】

- 宮城が誇る多彩な地域の魅力を資源として見出し、それらを活用した付加価値の高い観光コンテンツが創出・磨き上げられており、またハード・ソフト両面の受入体制が整うことで、国内外からの多様なニーズに対応した満足度の高い観光地になっています。
- 効果的な情報発信により国内外に宮城の魅力がPRされ、多くの観光客が訪れる地域となることによって、観光消費額が増加し、裾野の広い観光関連産業全体の振興が図られるとともに、観光を契機とした宮城のファンが増えることで、多くのつながりが生まれ、地域の活性化につながっています。

【実現に向けた方向性】

- ◆ 国内外からの観光客獲得のため、自治体及び観光事業者等が一体となって、宮城の自然や食・歴史・文化、生活といった観光コンテンツの創出と磨き上げを進めながら、地域の魅力を伝え、安心して利用できる観光施設や設備といった受入環境を整備するとともに、求められる情報の発信や観光人材の育成を始めとするおもてなし体制の充実に取り組んでいきます。
- ◆ 外国人観光客を含め国内外のニーズに合わせたプロモーションを行い、自治体や観光関係団体との連携や、多様な媒体を活用した戦略的な情報発信により、観光情報の量と質を高めながら、関連産業との連携を促進し、高付加価値な観光産業を創出します。